令和６年度　那覇市自治会長会連合会　全体研修会

「これからの自治会と地域自治を若者と共に考える」

～ 共感から共創へ ～

報告書

※　沖縄大学２年　赤嶺耕平さん
デザインによる紅型

令和６年度　なは市民活動支援助成金事業
（なはユース自治大学事業）

那覇市自治会長会連合会 会長 あいさつ

那覇市自治会長会連合会
会長 田島 繁

はいさい！　ぐすーよー　ちゅーうがなびら。
自治会長をはじめ行政機関の皆さまには、日頃から那覇市自治会長連合会の取り組みに対し、ご理解・ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。
この度、令和６年度那覇市自治会長会連合会 全体研修会の報告書が発刊されるにあたり、ご挨拶申し上げます。

本研修会は本年度最終行事としまして毎年開催しており、これまでは、防犯・防災・福祉・文化歴史・健康・次世代の人材育成・自治会加入促進など、様々な研修を行って参りました。
本年度は「これからの自治会と地域自治を若者と共に考える」～共感から共創～をテーマに、一部は、「なはユース自治大学（沖縄大学学生）」受講生による体験発表や自治会長・公民館長・学生によるシンポジウムが開催され、二部は、各グループに分かれて、自治会長と学生と一緒に討議し、結果発表が行われました。

今年の干支である巳年は「成長」「変革」「新しい挑戦」などの意味を持つ年とされています。まさにこれからの自治会と地域自治を若者と共に考え行動する時期が今年です。連合会としましても「新しい挑戦」が４月よりスタートします。「自治会を増やそう」キャンペーンを自治会長はじめ、関係各位の皆様と共に新規開拓・深耕開拓に取りくんで参ります。お互いが持てる力を存分に発揮して、知恵を出し合い、団結して一つ一つの課題を解決して参りましょう。

結びに、この度の研修会にあたり、多大なご協力を頂いた沖縄大学の山代寛学長をはじめ、経法商学科の島袋隆志教授、学生の皆さん、沖縄国際大学ボランティアサークル「Uni」のみなさん、当該全体研修会運営委員会の方々、他全ての関係者の皆様と「令和６年度 なは市民活動支援事業」補助金を活用させて頂き、このような素晴らしい「シンポジウム」と「全体研修会」が開催できたことに対し心より感謝申し上げ挨拶と致します。
イッペイ ニフェィディビル　宮古島の方「タンディーガ　タンディ」　石垣島の方「ミーファイユー」　日本最西端与那国島の方「アラーグフガラッサ」。

敬具

沖縄大学 学長 あいさつ

沖縄大学
学長 山代 寛

　このたび、那覇市自治会長会連合会、那覇市まちづくり協働推進課、そして沖縄大学が連携し開催した「これからの自治会と地域自治を若者と共に考えるー共感から共創へー」シンポジウムの成果を、一冊の報告書としてまとめる運びとなりました。本報告書が、自治会・行政・大学が協力し、より良い地域づくりを目指すための一助となることを願っております。

本学はこれまで、地域とともに歩む大学として、多様な立場の方々と協力しながら、地域社会に根ざした学びと実践を重ねてきました。本シンポジウムは、その取り組みの一環として、自治会の皆様や行政とともに、地域の魅力や課題を共有し、次の時代を見据えた地域づくりの方向性を探る貴重な機会となりました。特に、沖縄大学の学生がフィールドワークを通じて地域の課題を学び、その解決策を自治会長や地域の方々とともに考えたことは、まさに「共感から共創へ」というテーマを体現するものだったと感じています。

沖縄大学は今後も、地域との連携をさらに推進し、「地域共創・未来共創の大学へ」という理念のもと、地域とともに学び、成長し、新たな価値を生み出す場を創造していきます。これからの時代、大学は単に知識を提供する場にとどまらず、地域とともに未来を築いていく存在であるべきです。本報告書が、自治会、行政、大学、そして地域住民の皆様が共に歩む未来への指針となり、地域社会の持続的な発展につながることを願ってやみません。

最後に、本シンポジウムおよび報告書作成にご尽力いただいたすべての関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。沖縄大学はこれからも、地域との協働を深め、共に未来を創るパートナーとして、その役割を果たしていく所存です。

目　次

那覇市自治会長会連合会 会長あいさつ

沖縄大学 学長あいさつ

１．開催概要及びプログラム・・・・・・・・・・・・・・・・　1P

２．研修会のねらいと総評・・・・・・・・・・・・・・・・・　2P

３．運営委員会での経緯要約・・・・・・・・・・・・・・・・　3P

４．沖縄大学生による発表（なはユース自治大学）・・・　5P

5.　シンポジウム テーマ「これからの自治会を若者と共に考える」　16P

6. 全体研修会グループディスカッション・・・・　・・・　19P

参考資料

資料１　参加者アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・　38P

１．開催概要及びプログラム

令和6年度 「なはユース自治大学」 学生発表会、シンポジウム

那覇市自治会長会連合会 全体研修会

開催日時：令和 7年 2月 9日（日）14：00 ～ 17：00

場 所　　：沖縄大学　３号館１０１，１０２教室

進 行　　：我如古正樹（小禄泉原自治会、研修運営委員）

会次第

1. 開会挨拶 ：那覇市自治会長会連合会 会長 田島 繁

2. 経緯説明 ：那覇市自治会長会連合会 事務局長 西平 博人

3. 「若者と自治会による地域自治を共感する時間」

　・沖縄大学 学生発表　・島袋教授によるまとめ

４. シンポジウム

テーマ「地域自治を若者と共に考える」

進行：沖縄大学教授 島袋 隆志

登壇者

・銘苅新都心自治会 会長 前原 信達

・松島自治会・古島自治会 会長 西平 博人

・那覇市繁多川公民館 館長 南 信乃介

・那覇市まちづくり協働推進課 課長 屋比久 尚也

・沖縄大学生 ２年次　安座間 桜音

・沖縄大学生 ３年次　上原 大和

5. 休憩10分 →　教室の移動

6. 那覇市自治会長会連合会 全体研修会

テーマ「若者と自治会による地域自治これからを共創する時間」

GW方式：① 自己紹介、これまでの感想

　　②「若者が自治会に関わるには」意見交換

　　③ 全体共有

7. 那覇市あいさつ　市民文化部 部長 加治屋 理華

8. 沖縄大学あいさつ 沖縄大学 学長 山代 寛

２．研修会のねらいと総評

「なはユース自治大学」は、令和6年度の「なは市民活動支援事業」に採択された事業で、那覇市自治会長会連合会と沖縄大学島袋ゼミ、那覇市まちづくり協働推進課の三者が連携・協働して運営する初めての試みであった。

事業の背景として、地域自治会の必要性は若者から高齢者まで全世代を通して感じているものの、現状は自治会組織の高齢化と加入率の低下が著しい状況にあり、このため各自治会においては、次世代を担う若者（ユース）の声を受け止めながら若者が参加しやすい地域自治会のあり方や環境づくりが求められていた。

一方、沖縄大学においても長期ビジョンに掲げている“地域がキャンパス、地域のキャンパス～沖縄大学は「知」と「人」の交流拠点となります”の実現にあたって、若者世代が自治会や地域について学び、地域社会に貢献できる人材の育成が求められていた。

また、市行政でも、地域住民自らが地域づくりに参画し、自分ごととして他の団体等とも連携しながら地域課題解決に取り組んでいける社会を目指していることから、市民協働による地域自治の推進が強く求められている状況にあった。

その三者の想いが「なはユース自治大学」の事業につながった。事業の実施にあたっては４つの達成目標・目標数値を設定した。この目標数値の達成状況がそのまま事業の評価となる。

1つ目は5支部からそれぞれ一つの自治会を選出して学生への「講話」と「フィールドワーク」を実施することである。これは大学・行政側のガイダンスを含めて4月から7月にかけて行った。学生が講話と実体験を通して地域の魅力や課題に気づくだけでなく、地域の強みを伸ばし弱みを改善するための提案が取りまとめられたことは大きな成果であった。

2つ目は公開シンポジウムの開催である。自治会長、学生、公民館長、担当課長が登壇したシンポジウムでは、学生がまとめた5つの地域自治会の現状と学生提案を受けて、島袋教授のコーディネートのもと若者が参加しやすい環境づくりと継続していくための方策が深堀りされた。

3つ目は自治会長会連合会の全体研修会である。学生発表とシンポジウムを踏まえ、引き続き自治会長と学生を交えての全体研修会（グループワークショップ）を行った。沖縄大学の学生に加えて沖縄国際大学Uniの学生やまちづくり協働推進課職員、社協職員も加わり意見交換した。10に分かれたグループ全てがまとめの発表を行うことで各グループワークの内容を共有することができた。

４つめがシンポジウムとワークショップを受けての参加者アンケートである。“満足度5段階中4以上が8割”を目指したアンケートの結果は、約40人の回答者のほぼ全員が「とても良かった」、「良かった」と答えた。この結果が今回の「なはユース自治大学」の大成功を物語っている。自治会長会連合会と沖縄大学、那覇市の三者の当初のねらいは達成されたといえる。

課題としては自治会長の参加者とアンケートの回答者がが予定よりも少なかったこと、報告書作成までの時間が短かったことなどがあげられよう。

最後に、本事業を通して得た多くのヒントを各自治会長が持ち帰り、時代を見据えた取り組みの可能性を広げ、今後とも安全で楽しく住みよい地域づくりに取り組まれることを願う。また、参画した学生においては今回の体験を活かし、地域社会に貢献できる人材として引き続きご活躍されることを期待したい。

３．全体研修会運営委員会、なはユース自治大学運営委員会での経緯要約

○ **第１回運営委員会**

日時：令和6年 3月5日　主な議題「前年度の振り返り、報告書」について

○ **第2回運営委員会**

日時：令和6年 3月13日 主な議題「報告書、次年度の方向性」について

※　令和６年３月28日、那覇市自治会長会連合会前事務局 首里支部と那覇市自治会長会連合会現事務局 真和志支部と事務引継ぎ打ち合わせの際、西平会長より次年度の全体研修会の方向性として、助成金を活用し沖縄大学との連携事業を進めてきたいとの報告があり、了承を得る。

○**第3回運営委員会**

日時：令和6年 4月2日　主な議題：「沖縄大学との連携内容」について

※　沖縄大学 島袋隆志教授のゼミと連携して講座を作っていく事が決定する

○**第4回運営委員会**

日時：令和6年 4月26日　主な議題：「なはユース自治大学助成金申請、今後の進め方」について

○ なはユース自治大学 座学

・５月１０日　那覇市まつくり協働推進課、DX推進室　座学
・５月１５日　松島自治会、古島自治会　西平会長　座学
・５月２４日　銘苅新都心自治会　前原会長　座学
・５月３１日　真地団地自治会　前田会長　座学
・６月　７日　小禄泉原自治会　我如古会長　座学
・６月２８日　石嶺ハイツ自治会　末吉会長　座学

○ なはユース自治大学　フィールドワーク

・６月２１日　真地団地自治会　「百金食堂」
・７月　５日　銘苅新都心自治会「銘苅歴史所、地域資源めぐり」
・７月１１日　石嶺ハイツ自治会「地域見守り隊」
・７月２０日　松島自治会・古島自治会「地域イベント参加」
・７月２６日　小禄泉原自治会「地域課題、地域魅力現地まわり」

前期終了

・８月　２日　沖縄大学にて前期振り返り

○ **第5回運営委員会**

日時：令和6年 8月14日　主な議題：「今後の進め方、全体研修会n内容」について

〇　１０月４日 なはユース自治大学 助成金中間報告会参加

○ **第6回運営委員会**

日時：令和6年 10月23日　主な議題：「シンポジウム、全体研修会内容」について

○ **第7回運営委員会**

日時：令和6年 10月30日　主な議題：「シンポジウム、全体研修会内容」について

○ **第8回運営委員会**

日時：令和6年 12月10日　主な議題：「シンポジウム、全体研修会内容、チラシ作成」について

○ **第9回運営委員会**

日時：令和7年 1月22日　主な議題：「シンポジウム、全体研修会進め方」について

〇 1月２4日　沖縄大学にて発表ブラッシュアップ参加

○ **第10回運営委員会**

日時：令和7年 2月4日　主な議題：「シンポジウム、全体研修会進め方」について

○ **令和７年　２月９日　シンポジウム、全体研修会当日**

■シンポジウム・研修会案内チラシ

令和６年度　那覇市自治会長会連合会　全体研修会

「これからの自治会と地域自治を若者と共に考える」

～ 共感から共創へ ～

令和６年度　なは市民活動支援助成金事業
（なはユース自治大学事業）

日時　2025年2月9日（日）
14:00～17:00

会場　沖縄大学3号館　101教室

会費　無料

問い合わせ
那覇市自治会長会連合会
事務局　神山　098-911-3509

内　容
・　なはユース自治大学　受講生による発表
・「地域自治を若者と共に考える」シンポジウム
登壇予定者　※　変更の可能性もあります
那覇市繁多川公民館　館長　南　信乃介
銘苅新都心自治会　会長　前原　信達
松島・古島自治会　会長　西平　博人
那覇市まちづくり協働推進課　屋比久　直也
沖縄大学　学生
・那覇市自治会長会連合会　全体研修会

※　沖縄大学２年　赤嶺耕平さん
デザインによる紅型

※申し込み締め切り　1月24日（金）

申込　氏名　　所属（自治会）　　連絡先

「なはユース自治大学及び全体研修会運営委員」

〇委員長

西平博人（松島自治会・古島自治会
　　那覇市自治会長会連合会 事務局長）

〇委員

末吉ヒサ子（石嶺ハイツ自治会）

前原信達（銘苅新都心自治会）

我如古正樹（小禄泉原自治会）

前田節子（真地団地自治会）

謝名堂 聡（首里）

又吉盛太（まちづくり協働推進課職員）

神山三千代（自治会長会連合会事務局員）

島袋隆志（沖縄大学）

兼島徹（沖縄大学）

４．なはユース自治大学
沖縄大学生による発表

「 沖縄大学の学生たちが、松島自治会、古島自治会、石嶺ハイツ自治会、銘苅都心自治会、小禄泉原自治会、真地団地自治会による座学やフィールドワークを実施し、感じた事や課題について発表しました。」

① 石嶺ハイツ自治会（首里支部）

【課題】地域情報の共有不足と高齢者の孤立

【石嶺ハイツ自治会に対する提案】

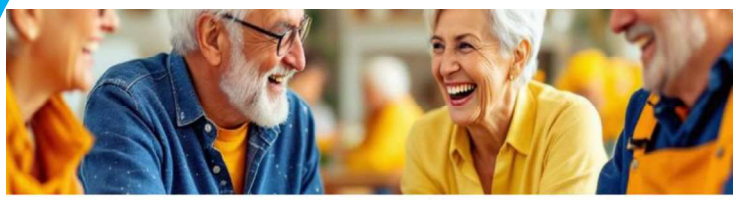
・見守り活動の強化：高齢者宅への定期訪問を実施し、生活状況の確認と安全を確保。

・イベントによる交流促進：夏祭りやクリスマス会などを企画し、地域住民の交流を活発化。

・若者の参加促進：地域イベントに学生ボランティアを招き、活動への理解と参加意欲を高める。

【展望】地域のつながりを強化し、孤立を防ぐための見守りネットワークの構築を目指す。

石嶺ハイツ自治会に対する提案
（発表資料から一部抜粋）



問題①高齢者が多い（一人暮らしが多い）

1. 孤立感の解消
高齢者の方々が孤立しないように支援します。

2. 生活支援
日常生活における支援体制を強化します。

3. 健康増進
健康維持のための活動を推進します。

問題改善のためのイベント開催

1 企画立案
イベントのテーマや内容を検討します。

2 広報活動
地域住民への告知を徹底します。

3 イベント実施
計画に基づきイベントを実行します。

4 効果測定
イベント後のアンケートを実施します。

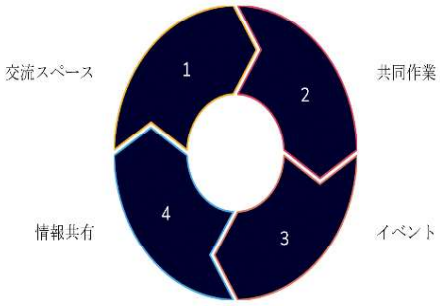
スポーツイベントや祭りの企画

スポーツイベント
運動不足解消や交流を目的とします。

地域のお祭り
地域の伝統文化を継承します。

交流イベント
世代間の親睦を深めます。

多世代が交流できる仕組みづくり



多世代交流スペースの設置や、共同作業イベントを企画します。情報共有の促進で、地域全体の活性化を目指します。

自治会活性化への期待

住民の満足度向上
地域への愛着を深めます。

住みやすい街づくり
安心して暮らせる環境を提供します。

地域の発展
持続可能な地域社会を目指します。

② 銘苅新都心自治会（本庁支部）

【課題】単独世帯の増加と自治会参加率の低さ

【銘苅新都心自治会に対する提案】

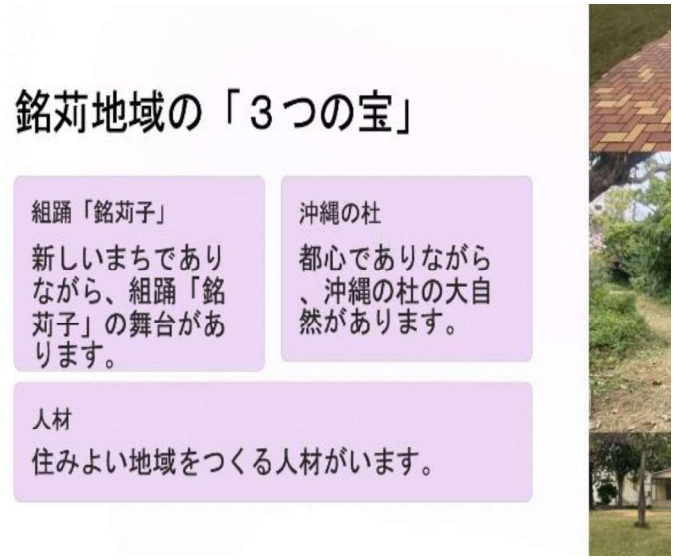
・多世代交流イベントの開催：ラジオ体操や公園での交流会などを企画し、子どもから高齢者までが楽しめる機会を提供。

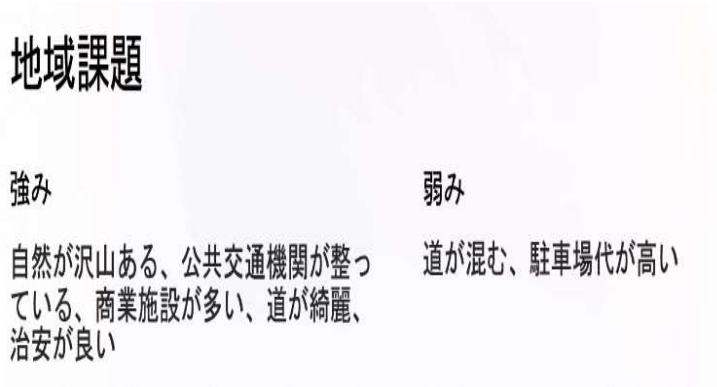
・防犯・環境美化活動の推進：公園清掃や防犯パトロールを継続し、地域の安全・安心な環境を維持。

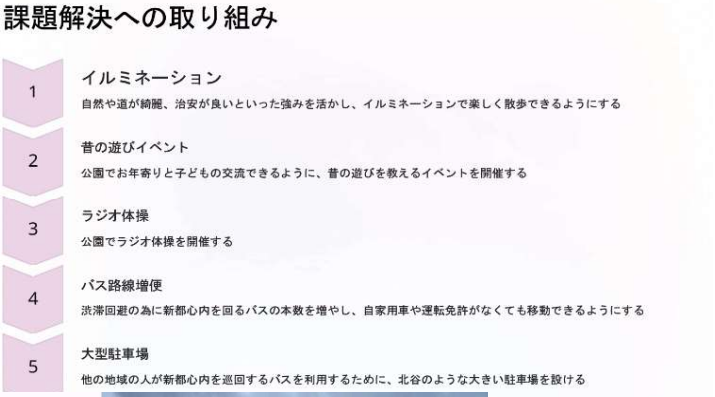
・住民参加型のイベント：地域資源を活用した祭りやワークショップを開催し、住民が主体的に参加できる環境を整備。

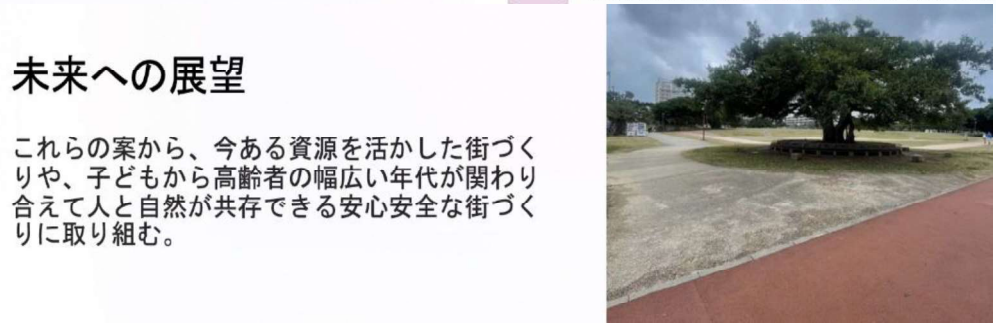
【展望】地域の魅力を再発見し、住民同士のつながりを強める自治会を目指す。

銘苅新都心自治会に対する提案
（発表資料から一部抜粋）









③ 真地団地自治会（市営団地支部）

【課題】 若年層の参加不足と役員の担い手不足

【真地団地自治会に対する提案】

・青年会・子ども会の設立：若者がエイサーやイベントを通じて自治会に関わる機会を増やす。

・イベントの開催：祭りやスポーツ大会を定期的に企画し、家族ぐるみの参加を促進。

・学校との連携：高校・大学の授業で自治会訪問を取り入れ、地域に対する関心を高める。

【展望】 地域コミュニティの活性化と、若い世代が継続的に自治会活動に関われる仕組みを整える。

真地団地自治会に対する提案
（発表資料から一部抜粋）

真地団地自治会の魅力

百金食堂

・金曜日に百円弁当を販売、提供しているコスパのいい食堂です

・弁当は、真地団地自治会の方々が調理から販売までを行っています

・団地に住んでいる足の不自由な方のために配達も行っています

・弁当だけでなくたくさんの元気もらえる活気溢れるコミュニティー

課題・現状

●若年層不足

→後継ぎ不足

→存続の危機

おじ～おば～
困るよね～

誰がやるのかね～

課題・現状の改善

・青年会や、子ども会を作る

・ちょっとした祭りやスポーツ大会などを開催する

・高校、大学の授業に自治会訪問などを組み込んで学生の地域自治会に関する知見を広げる

私たちの感想

・百金食堂は、弁当販売を通して、地域住民のコミュニティーの場になっていると感じました。

・この取り組みは、他の自治会も同様で元気があり、残していかないといけない取り組みの一つだと感じ、そのためには、私たち若者の力が必要不可欠になってくると身をもって体験することができました。

真地団地自治会の皆様へ

私たち沖縄大学生を百金食堂へお招き頂きありがとうございました。貴重な経験をすることができました。

④ 小禄泉原自治会（小禄支部）

【課題】高齢者の増加に伴う情報伝達の難しさ

【小禄泉原自治会に対する提案】

・スマホ教室の開催：大学生が講師となり、高齢者を対象にスマホの基本操作やLINEの活用法を教える。

・買い物支援の導入：高齢者の移動負担を軽減するため、ネットショッピングの代行支援サービスを提案。

・自治会LINEグループの活用：自治会専用のLINEグループを開設し、イベントや防災情報を効率的に共有。

【展望】デジタル技術を活用し、地域住民が情報を共有しやすい自治会づくりを目指す。

小禄泉原自治会に対する提案
（発表資料から一部抜粋）

小禄泉原自治会の課題

①デジタル化についていけない人が多い

②買い物難民の増加

③詐欺被害の増加

④免許返納者が多く、移動手段が足りてない

高齢者が多い地域だからこその課題

今回は①②の課題に焦点を当てる

デジタル化の課題とスマホ教室の開講

課題	対策	効果
高齢者が多いので、スマホに慣れていないので、スマホの扱いが難しい人が多い。	大学生などを講師に招き、スマホ教室を開講。おしゃべりを楽しみながら、スマホの基本操作を学べる場の提供。	スマホに慣れることで、情報収集やコミュニケーションが円滑になります。

買い物難民の増加とネットショッピング支援

課題

免許返納や坂道の多さから、買い物に行くのが困難な高齢者が増えてる。

対策

ネットショッピングの注文代行サービスの提供。操作が苦手な方の代わりに注文し、自宅まで届ける。

効果

買い物支援と定期的な訪問による見守りの両立。高齢者の生活をサポートし、安心を提供。

地域情報伝達の円滑化と自治会LINEの開設

1	2	3	4
ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4
自治会のLINEグループを開設	スマホでの会話を促進します。	スマホ操作に慣れていただきます。	地域情報伝達をスムーズにします。

まとめと今後の展望

小禄泉原自治会は、地域間でのつながりがあり、とても明るい地域だな今回の自治会のことを調べていて思いました。

今回取り上げた課題が解決していけば小禄泉原自治会はもっと高齢者が住みやすく、安心して過ごしていける地域に少しでも近づけていけると思うので、今後とも頑張っていってほしいと思います。

⑤ 松島自治会・古島自治会（真和志支部）

○ 松島自治会

【課題】若者の自治会参加率の低下と高齢化の進行

【松島自治会に対する提案】

・ボランティア証明書の周知：進学・就職に有効なボランティア証明書を活用し、ポスター掲示などで認知度を高める。

・学習支援の実施：高校生・大学生が小中学生の宿題をサポートする「学習支援活動」を通じて、若者が地域活動に関わる機会を創出。

・子ども食堂の開催：長期休暇中に子ども食堂を実施し、地域の子どもへの支援と、若者が活動に参加する機会を提供。

【展望】世代間の交流を深め、地域の歴史や魅力を次世代に伝える活気ある自治会づくりを目指す。

○ 古島自治会

【課題】若者の認知度不足と自治会参加率の低さ

【古島自治会に対する提案】

・SNSの活用：InstagramやTikTokを活用し、自治会の活動や地域の魅力を発信。イベント時にSNSフォロー特典を提供し、認知度を向上させる。

・地域の魅力発信：飲食店やイベント情報など地域の魅力を発信し、住民が自治会の活動に関心を持つきっかけを作る。

・世代間交流イベントの企画：スポーツ大会や地域清掃活動を通じ、若者と高齢者が交流する機会を提供。

【展望】若者が気軽に参加しやすく、地域の活力を生む自治会を目指す。

松島自治会・古島自治会に対する提案
（発表資料から一部抜粋）

若者の参加

- 大学生に限らず、中高生も参加できる環境作りが大事。
- 就職や進学に有利な、ボランティア証明書が有効であることを宣伝する。

ポスターを作成し、モノレールの駅や学校内に掲示する。

若者の参加

- 松島こども食堂

ご飯に困っているとこどもたちに一食でも提供する。

給食が出ない長期休みの期間だけの開催

こどもの居場所作りにもなる。

若者の参加

- 松島寺小屋

高校生、大学生が小、中学生の宿題を手伝ったり、学習支援を行う。

交流、復習、教師を目指している人にとってはかなりいい経験になる。

課題: 若者の参加率向上

1. 認知率向上
   自治会の認知率を上げる
2. SNS活用
   Instagram、X、TikTokなどの活用を推進する
3. フォロワー増加
   フォローしてくれた場合の特典を付与する

まとめ: 持続可能な自治会へ

自治会は地域のコミュニティ構築の基礎となる大切な存在であり、自治会の持続的な発展が地域の発展にもつながります。

＜島袋教授による大学生発表まとめ＞

学生たちはフィールドワークを通じて、地域ごとに異なる課題を発見し、その解決策を提案しました。全体を通じて、若者の自治会参加促進、世代間交流の活性化、地域資源の活用、デジタル技術の導入など、未来につながる具体的なアイデアが多数示されました。これらの提案が今後の地域づくりに活かされ、自治会、大学、行政が共に歩む「地域共創・未来共創」の実現につながることが期待されます。

５．シンポジウム

「 学生発表を受け、シンポジウムでは自治会関係者、大学生、行政、公民館が自治会活動の活性化について議論を行いました。」

シンポジウム
「これからの自治会と地域自治を若者と共に考える～共感から共創へ～」

開 催 報 告

進行：沖縄大学 教授 島袋 隆志

登壇者

・銘苅新都心自治会 会長 前原 信達
・松島自治会 / 古島自治会 会長 西平 博人
・那覇市繁多川公民館 館長 南 信乃介
・那覇市まちづくり協働推進課 課長 屋比久 尚也
・沖縄大学生 ２年次 安座間 桜音
・沖縄大学生 ３年次　上原 大和

＜主な議論のポイント＞

①　若者の自治会・地域活動への関わり
・沖縄大学や沖縄国際大学の学生がフィールドワークに参加し、地域の課題や資源を学んだ。
・学生が子ども支援や地域イベントに関与し、自治会との新たな関係構築が進んでいる。
・若者が自治会を「地域課題を解決する場」と捉え、積極的に関わりたいという意識がある。

①　地域資源の活用と課題
・公園や自然など、地域の資源を活かしたまちづくりの可能性が議論された。
・交通の利便性や住民の交流の場の不足など、解決すべき課題も明らかに。
・各自治会が独自の資源を活かし、交流の場を作る取り組みが求められる。

①　世代間交流の重要性
・自治会の掲示板や新聞などの紙媒体を好む高齢者と、SNSやLINEなどを活用する若者との情報伝達の違いが指摘された。
・若者と高齢者の交流機会を増やし、自治会を多世代が関わる場にしていく必要がある。
・高齢者は自治会の「強み」として捉えられるべきであり、地域活動の重要な担い手である。

①　自治会と学校・企業の連携
・小中高校の授業に地域学習を組み込む動きが広がっており、自治会が教育機関と連携する意義が再認識された。
・大学と自治会が連携し、地域資源を活かした学びの場を提供することで、若者の自治会参加を促すことができる。
・企業とも連携し、地域活動を支援する仕組みを作ることが望まれる。

①　イベントを通じた地域のつながり
・祭りやスポーツイベントなどの地域行事は、住民のつながりを強める重要な機会となる。
・子どもや若者が関与しやすい形でのイベント企画が求められる。
・イベントを通じて、自治会の存在を地域住民に広めることができる。

①　行政と自治会の連携
・自治会の「加入率」よりも「参加率」を高めることが先決であるという意見があった。
・行政としても、自治会活動の活性化を支援する施策を模索する必要がある。
・新しい自治会長への研修や学びの場が求められており、大学と連携して「自治会講座」を開設する案が提案された。

「地域自治を若者と共に考える」シンポジウムの様子